



地域限定の情報紙

白石東地区限定の情報紙「白石東まちづくり通信」が発刊されることになりました。

本紙は、白石東まちづくりセンターを編集局に、そして地域の方々が記者になって地区内取材し、年4回発行する予定です。みなさんも身近な話題をどしどしお寄せ下さい。スタッフが取材に参ります！

白石東

まちづくり通信

2005.8.1 発行

標高531mに挑戦！ もいわ山登山

取材担当：五十嵐



みんなで登ったよ、もいわ山

7月10日の日曜日、白石東地区青少年育成委員会の主催による子どもハイキング「もいわ山登山」が行われました。集まった子どもは82人、主催者を含む大人が30人、合計112人の大登山となりました。

最初は元気！でも登るにつれて・・・

「こんにちは～」、「こんちわーす」。もいわの登山道で総勢112人とすれ違う人達へのあいさつは壮観でした!!

当日は、あいにくの天候で、山には霧がかかっていましたが、子ども達も育成委員もみんなやる気満々で登山を開始しました。登山道には、昨年台風で倒れた大木がゴロゴロしていて、自然界のものすごさに「ワァー、すげー」「気をつけろー」と子ども達もびっくりしながら登って行きました。

最初は元気いっぱいなのですが、途中からエネルギーと元気がどんどん無くなり・・・声までも少なくなってきました。でも、すれ違う人達に「わぁー大変ねえ。何年生？ がんばってね！」と声をかけられ、励まされると急にやる気と元気のでる子ども達でした。



「イエーイ!」。もいわ山頂上での記念写真。

頂上が見えてきたぞ！

山頂まで残りわずか。下山してくる人達に「あと、どのくらいですか?」と尋ねた子ども達に「お地蔵さんの数が33番目になったら終わり、そのすぐ上が頂上だよ」と教えてもらおうと、「あと5つ!」、「あと4つ!」と、どんどん元気が出てきます。最後のお地蔵さんに手を合わせると、頂上がすぐそこに見えてきました。「よっしゃ～いくぞ!」。班長さんの声につられ、最後の力をふりしぼって必死に登る下級生、そして・・・ついに登頂!!



山頂をめざして、一生懸命に登る子ども達。

一人の脱落者もなく、無事に山頂に登りつめた子ども達の晴れがましい顔、満足そうな顔、どの顔を見ても「やったぞー」といういい顔をしていました。

登山の後は食事がおいしい!!

山を下りた時には、もうお腹もペコペコ。この後は、滝野公園にバスで移動して、委員手作りの焼きそばやフランクフルトをおいしそうに食べていました。みんな、ご苦労さまでした。



「おいしいね!」。登山の後は滝野公園で昼食。

知っているようで知らない？！

取材担当：武田



JICA札幌国際センター ってどんなところ？

札幌の国際交流拠点です

JICA(国際協力機構)札幌国際センターは、海外からの研修員を迎えるための宿泊研修施設です。また、地域の皆さんにも国際協力についての理解を深めてもらうために、パネル展や講演会の開催などの広報活動も行っています。

気軽に利用しよう！まずはレストランと図書資料室

様々な国の人を利用するセンター内には、和・洋・中のメニューがそろったレストラン JICA があり、地域の方も利用できます。また、たくさんの本や資料を読むことのできる図書資料室も開放しています。

一度、足をはこんでみませんか？



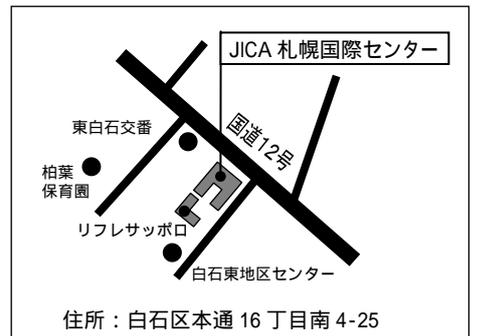
レストラン JICA。窓辺には緑がいっぱい。

日替わりメニュー(中華)



【レストランのメニュー】

4種類の日替わり定食は全て550円！他にラーメンやスープカレーが450円など、値段もお手頃。



住所：白石区本通 16 丁目南 4-25

シリーズ：白石東歴史探訪

取材担当：長井

大谷地小学校

の歴史を探ってみました。

明治 26 年開校

大谷地に人が住み始めたのは明治 18 年ですが、大谷地小学校の前身である大谷地簡易教育所が開設されたのは、明治 26 年でした。この頃、大谷地から白石までは背丈を越えるヨシの原っぱが続いており、白石小学校まで通うのは大変なことでした。そこで、大谷地に入植した人達が力を合わせて学校を作ることになりました。その後、明治 32 年に白石尋常小学校大谷地分教場として現在の大谷地小学校の場所に校舎が建てられました。当時、学校のまわりは一面の田んぼで、子ども達は学校から帰ると水田づくりの手伝いをしたそうです。

昭和 16 年には大谷地国民学校に名前が変わり、児童数も少しずつ増えてきましたが、戦争が始まると防空訓練や食糧不足による田畑作りなどで、落ち着いて勉強ができる状況ではありませんでした。

戦後は白石村立大谷地小学校に変わり、昭和 25 年に白石村は札幌市に編入され、どんどん児童数も増えました。

今の校舎は昭和 59 年に建てられたもので、現在も 20 学級 619 人の子ども達が毎日元気に学んでいます。



白石尋常小学校大谷地分教場。(明治 32 年)



周囲のほとんどが農地でした。(昭和 37 年)



開校 110 周年を迎えました。(平成 15 年)

趣味のコーナー



まあステキ

みんなのギャラリー

~このギャラリー(紙面)お貸します~

押し絵を紹介します。

皆さんは「押し絵」って知っていますか？

羽子板に代表される立体感のある貼り絵(布細工)のことで、頭、顔、手、着物、帯などの形を厚紙で作し、綿をのせ、それを絹地、ちりめん、緞子(どんす)でくるみ、組み合わせて台紙に張り合わせて作品を完成させます。

取材担当：杉浦

作品紹介



宝船(羽子板)



連獅子(羽子板)



今年の干支「鶏」(色紙)



作者紹介

川崎 加代子さん (下白石町内会)

「押し絵は20年くらい前から始めました。現在も週に一度は専門の先生の指導を受けながら、創作活動を続けています。」と笑顔で説明してくださった川崎さん。

最近の活動としては、白石東地区センターの文化祭へ毎年出品。その他年4回、JICAの研修員への指導も行っています。

まちかど発見日記



取材担当：横道

北海道ノーモア・ヒバクシャ会館(入館無料)

札幌市の中でなぜ、白石東地区内に原爆資料展示館があるのか？そんな疑問をもって「北海道ノーモア・ヒバクシャ会館」を訪問したところ同会館の館長さんが快く取材に応じてくれました。昭和49年、第4回北海道原爆死没者追悼会で、道内居住の被爆者(現在は500余名)の活動センターを、そして戦争のない平和の大切さを次世代に引き継ぐ教育の場をつくろうという機運が高まり、平成3年12月に会館が建設されました。館内には資料展示館が常設され、原型をとどめない日常品等が展示されていました。最後に「多くの方に訪館してもらえることを願っています。」と館長さんはおっしゃっていました。



住所：白石区平和通17丁目北6-7



平和通17丁目にある会館



資料展示室(2階)



原爆ドームの模型(1階)

まちづくりセンターからのお知らせ

白石亭をご利用下さい(所在地：白石区本通17丁目北 お問合せ：白石東まちづくりセンター)

地域で管理している白石亭は、閑静な庭園に囲まれた日本情緒を残す建物です。事前に予約すれば茶室、和室、舞踊室が無料で使えます。ぜひご利用ください。

第4回白石東まちづくりフォーラム(日時：9月21日(水)午後2:00 会場：白石東会館)

テーマ 『地域で見守る子育てと青少年の健全育成について』

講師：札幌社会福祉専門学校講師 柿本 伸之氏



白石亭

ここが白石東地区です

白石東地区は平成3年1月に、東白石地区から独立分離した地区で、区内で最も東に位置しています。

人口約2万3千人を数え、南郷18丁目駅を中心に広がるこの地域には、「JICA札幌国際センター」など特色ある施設があります。



北はJR線から南は東北通まで。東西は、厚別川から月寒川までかぁ。わかりやすいマチだね！



「白石東まちづくりセンター」をお気軽にご利用下さい

この地区では、町内会と体育スポーツ振興会、青少年育成委員会などの各種団体が協力して、「交通安全運動会」や「地区マラソン大会」など、ユニークな行事が行われてきました。

このような伝統と地域資源を活かし、今後、多くの方がまちづくり活動に参加していけるよう、「白石東まちづくりセンター」としてもお手伝いをしていきたいと考えています。また、当センターが入っている「白石東会館」は、交通も便利な場所に位置し、ホール、会議室、和室が用途に応じて利用できますので、各種会議やサークルの会合などにもご活用ください。



白石東まちづくりセンター
(白石東会館内)

情報をお寄せ下さい！！

「近所におもしろいものがある」、「前から気になっていた施設がある」、「ユニークな活動をしている人を知っている」など、どんな話題でも結構です。皆さんからの地域の情報をお待ちしております。



取材スタッフ

武田祐次(町連)・横道実(社協)・杉浦凧子(民児協)
五十嵐載子(育成)・長井和幸(体振)

お問い合わせ 「白石東まちづくり通信」編集局

〒003-0026 札幌市白石区本通18丁目南2-6 白石東まちづくりセンター内

TEL011-862-0813 FAX011-862-8694 (休館：土・日・祝日)

